

春風秋霜

12月号

令和元年12月1日
島田市教育委員会より
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 総合教育会議から

11月5日（火）に総合教育会議が行われ、不登校や引きこもりの実態把握と対応策について協議しました。両者とも近年増加傾向が顕著である上に、家庭の協力が欠かせない問題であるため決定打となる対応が難しいということが、市長と教育委員の間で共有されました。

学校のできることは、楽しい充実した学校生活を通して、学力をつけると共に自己肯定感を高めることです。また、失敗を乗り越えたり、知らない仲間と触れ合ったりする機会を増やすことも大切になります。

地域にも様々な体験が用意されています。11月3日（日）に行われた午前中の市子連のドッジボール大会及び午後のフェスタ子供会には多くの小学生（延700人ほど）が参加し、知らない者同士が楽しく交流していました。11月17日（日）に行われた県スポレク祭には、子供を含む500人ほどの市民が参加し、ニュースポーツや障害者スポーツを楽しんでいました。また、公民館や自治会主催の子供対象事業もたくさんあります。

このような体験を通して、知らない人と仲良くなる力や、困った時に教を請う力（援助希求力）を身につけることが、不登校や引きこもり防止につながると思います。学校と家庭が協力して子供たちに体験の場を増やすため、アンテナを高くし、様々なイベントや事業を子供たちに紹介していただけたらと思います。



フェスタに集まった子供たち

2 違う立場の人との会話について

10月31日（木）と11月1日（金）にインドネシア・カンボジアの大学生と3小学校の交流が行われました。私は、大津小学校の交流会を参観しましたが、両国の大学生が一生懸命に日本語でプレゼンを行っている様子に感心しました。

国によって民族や風習の違い、国の課題も違うことが小学生に伝わったと思います。子供たちにとって、民族衣装を着たり、踊りを踊ったりと楽しい思い出になり、両国が身近な存在になったと思います。

個人的に話をすると、両国の結婚観や出産数のほか、ジャカルタの地盤沈下などの環境問題についても聞くことができ、私自身も視野が広がりました。もっと交流に時間をとることができれば、子供たちにとってもたくさんの発見があったと思います。来年も交流ができると思いますから、積極的な参加をお願いします。

3 学校便りから

神座小学校の曾我校長は、「島田大祭にかかわる中で町内の方々と話すと、消費税の話やキャッシュレス決済、カロリー表示の話など事業者としての話が多く、立場の違いを感じました。増税や商品表示を消費者の立場で考えていたので、自分の視野の狭さを感じると共に、いろいろな方と話しをすることは大きな価値があると思いました。」と、学校便りに書かれていました。

教育委員会の外部評価委員だった小田島さんは、「子供の後ろには働いている保護者がいるから、子供を理解するためには、社会の動向に敏感でいなくてはならない。」と言われます。また、子供の家庭状況は様々です。中にはひとり親家庭や遠方で働いている保護者もいます。そのため、保護者に何かを依頼する時は、様々な配慮が必要です。教育関係者は、多面的な見方を培うことが大切だと思います。

4 人事異動について

12月になると、今年度末の異動調書の提出が求められます。異動は教職員全員の希望が叶えられればよいのですが、希望が叶うばかりではありません。子供の数によって教員数も変わるし、退職者や生活転希望者の存在や学校組織の硬直化を防ぐためにも、異動は必要になります。

異動が避けられないなら、積極的に異動を考えるべきです。少なくとも、今後の10年間を見通して、どんな異動をするべきかを考えて欲しいと思います。年齢によって自己課題は様々だと思いますが、多様な経験をすることや自分のスキルアップのために、どこに異動すべきかを考えるとよいでしょう。

例えば、特別支援学校(学級)や他地区への異動です。海外の日本人学校や大学院派遣、小中交流なども、スキルアップの選択肢の一つだと思います。どうせ異動するなら、挑戦する意欲が必要だと思います。

肘かけ椅子

鈴木 利弘 学校教育課長

「北国の春」

今年8月にモンゴルを訪問しました。オリンピックに向けたボクシング事前合宿についての協定書締結式及び島田第一中学校と姉妹校提携を結んでいるナラン外国語学校訪問に同行したのです。モンゴルでは何回か歓迎の集いがありました。そこでは、主催者代表が挨拶に加え、歌を披露してくれることがよくありました。そして、歌は決まって「ふるさと」を想い、「母」に感謝するものでした。

訪問3日目、青空の下、平原での集まりでも、ナラン外国語学校の副校長先生が朗々と歌いました。私たちが御礼の挨拶をする際に、校長先生、副校長先生から歌のリクエストがありました。曲名は「北国の春」。突然のことで、音はずしたり、歌詞も間違えたりと散々でしたが、島田市から参加した4人で何とか歌いました。

翌日、ナラン外国語学校を訪問しました。夏休み中にもかかわらず多くの職員、子供たちの熱い歓迎を受けました。歓迎式では「北国の春」のメロディーに合わせ、8人の女子生徒が着物姿で日本舞踊を舞ってくれました。続けて、私たちからの御礼の挨拶。歌うはもちろん「北国の春」。前日より余裕もあり、歌詞にある「ふるさと」「おふくろ」への想いも込めることもできました。職員、子供たちから温かい拍手をいただきました。

2ヶ月後の10月11日(金)、大井神社宮美殿で島田大祭訪問団歓迎レセプションが開催されました。ナラン外国語学校の校長先生も来日しており、笑顔で再会することができました。会ってすぐに校長先生からプレゼントをいただきました。写真が貼り付けられたマグカップです。そこには「北国の春」を歌う4人の姿がありました。モンゴルで教えられた「ふるさとを愛し、親に感謝する心」を大切にしていきたいとあらためて思いました。

